小～中規模噴火のハザードマップ（無雪期）

噴火によって発生する現象

火山ガス

◆ 火口や山腹にできた割れ目から、有毒ガスがふき出します。
◆ 有毒成分が多く含まれると生命に危険がおよぶこともあります。

➢ 風下やくぼ地など、ガスのたまりやすいところには近づかないでください。
➢ ぜんそくなどの持病がある方は発作を起こすことがあるので特に注意してください。

大きな噴石

◆ 火口から、大人の握りこぶしより大きな岩石が弾道を描いて吹き飛ばされます。
◆ 当たると家は壊れ、人は死傷します。

➢ 丈夫な建物の中に避難してください。
➢ やむをえず外に出るときは、ヘルメットをかぶりましょう。

空振

◆ 噴火時の爆発によって発生する空気の振動（しょうげき波）です。
◆ 窓ガラスが割れてけがをすることがあります。

➢ 火山に向いた窓ガラスには近寄らないようにしましょう。
➢ 火山に向いた面のガラスを強化することも有効です。

降下火砕物（降灰）

◆ 上空の風に乗って運ばれた火山灰が、風下側に降ります。
◆ 道路に灰が積もると、車の走行は難しくなります。

➢ マスクやゴーグルなどをつけましょう。コンタクトレンズは外しましょう。
➢ 窓やドアをしっかり閉めましょう。

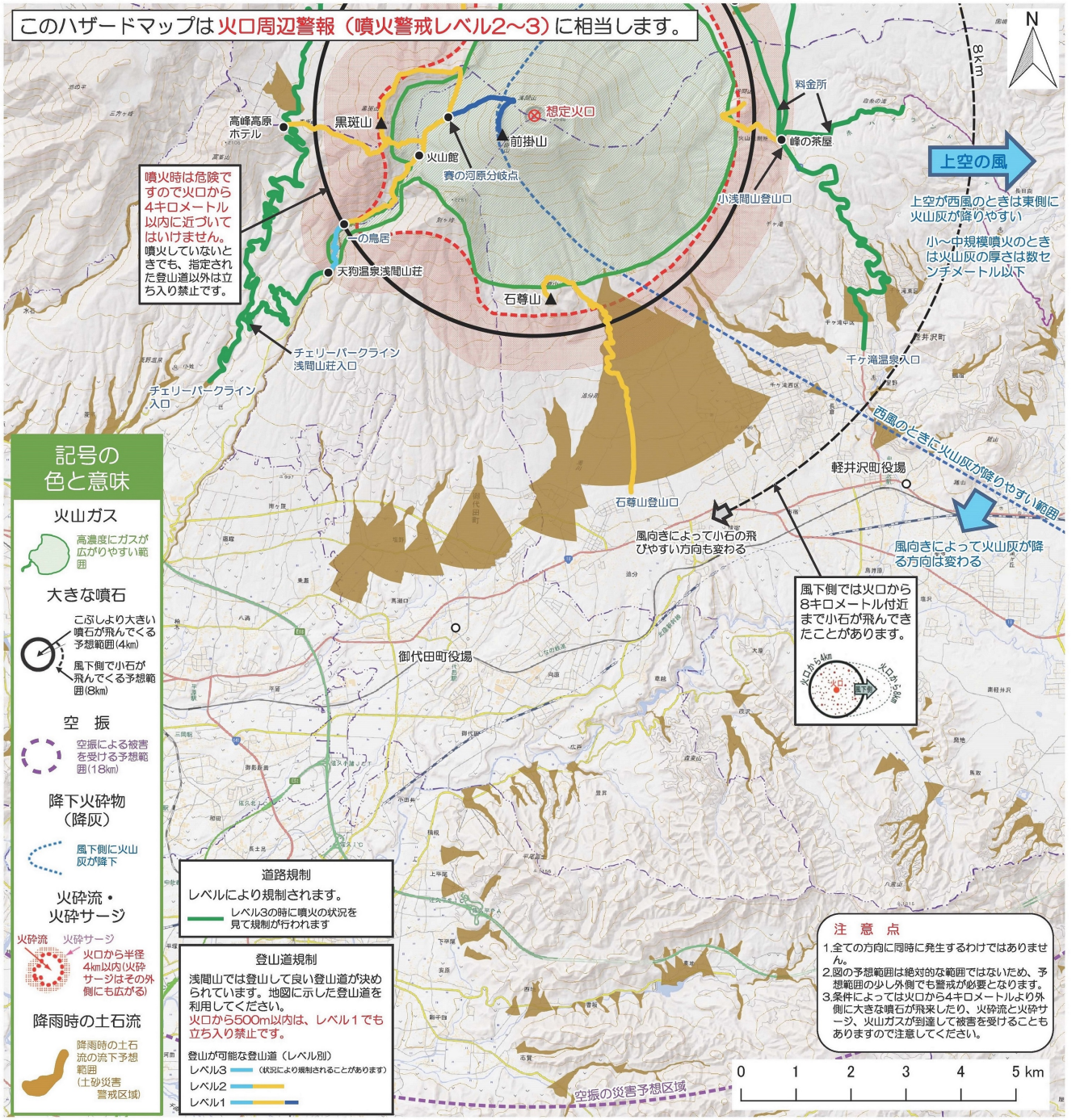
火砕流・火砕サージ

◆ 高温の岩石や火山灰が、火山ガスと一体になり斜面を高速で流れ下ります。
◆ 人が巻き込まれると死亡します。
◆ 火砕サージは、火山ガスを主体とする希薄な流れのことで、流動性が高く、尾根を乗り越えることがあります。

➢ 時速60～100キロメートルの速さで流れてくるので、影響を受ける可能性がある範囲では、事前に安全な場所へ避難する必要があります。

降雨時の土石流

◆ 斜面に積もった火山灰が、降雨によって渓流の土砂を巻き込み流下します。
◆ 流れ下る速度は時速60キロメートルにも達し、建物を押し流します。

➢ 大量の降灰が積もり、その後の降雨で土石流の被害が生じる可能性がある場合は、国土交通省が「緊急調査」を行い、危険な範囲と発生の時期を町を通じて提示します。
➢ 噴火後に降雨が予想される場合には、沢のそばに近寄らないようにしましょう。

このハザードマップは火口周辺警報（噴火警戒レベル2～3）に相当します。